

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4699200012
法人名	株式会社 グループホーム天望台
事業所名	グループホーム 天望台
訪問調査日	平成 22 年 2 月 4 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4699200012
法人名	(株)グループホーム天望台
事業所名	グループホーム天望台
所在地	鹿児島県大島郡天城町瀬滝677-1 (電話) 0997-85-4722

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年2月4日 評価確定日 平成22年3月10日

【情報提供票より】(平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 7 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	10,000円(水道光熱費)
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	67歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳之島診療所・桜山歯科医院
---------	---------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

徳之島天城町の県道沿いにグループホーム天望台のユニークな看板が目にとまる。島内では一番新しいホームであり運営者と管理者、ケアマネ、職員は丸となり「利用者の方が今まで生きてきた生活を続け穏やかに暮らしていけるように支援する」という理念の下に一人ひとりを大切にケアに取り組んでいる。運営者は地域住民で近隣との交流は日常的に行われている。夕方のリビングキッチンでは職員と女性利用者が食事の準備をし、料理が並び終わる頃には4人の男性が加わってテーブルを囲み、和やかな食事が始まる。暖かい雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年度第三者委員の設置の案があったが、知合いの多い地域性の中ではうまく機能できないと取りやめの結果となった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者、ケアマネが数日かけてケア項目や地域との関わりについて職員と話し合いをしながらまとめている。今回の自己評価で職員が知識の向上を目指したいという意向が伺える。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の開催には至っていない。会議ではホームの状況や活動報告がなされ、ホームでの問題点やインフルエンザ対策などについての話し合い、包括からの情報ももらえたり、地域の方にホームに対しての理解が浸透し、地域へ出かけやすくなるなど会議での取り組みが運営に反映されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族にはホーム便りは1~2ヶ月に1回発行し、2ヶ月に1回は個別に近況・健康・服薬について手紙を書いている。七夕祭り・敬老会には行事後に家族と話し合いの場を設けたり、面会時や運営推進会議などで意見や苦情など聞くようにしている。出された意見は運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>社会福祉協議会と地域包括センターが協力して主催しているゆいゆいサロンには毎週4~5名の利用者が参加し地域の人と一緒に体操をしている。小学校の持久走大会・運動会・相撲大会や徳之島でのトリアスロン、農業祭等の見学に出かけている。ホームの2周年行事の七夕祭り開催には地域の人達も参加し交流している。ホームには普段から婦人会・老人会・知人が気軽に訪問している。秋以降は新型インフルエンザの為交流が控え目になっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初運営者が「利用者の目線に立ち考えたゆっくり、いっしょに、楽しみながら今まで生きてきた暮らし方(家族の下で、地域の中で)の継続を支援する」独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎月1回の職員会議で理念にそったケアが出来ているか話し合い理念の意識づけと共有を図っている。リビングや廊下に理念を掲示し日々の取り組みの中でも意識の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行政主催のゆいゆいサロンへの参加、小学校の持久走大会、運動会、相撲大会、徳之島トライアスロン、農業祭など地域行事に参加している。ホーム2周年の七夕祭には地域の人々が多数参加している。ホームには普段から婦人会、老人会、知人が気軽に訪問するなど地域との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者とケアマネは評価の意義を職員に説明し項目の説明や地域との関わりについて職員と一緒に日にちを掛けながら話し合いをしてまとめている。今後取り組んでいきたい具体的な問題点も上げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催に至っていない。会議ではホームの状況や活動報告がなされ、ホームでの問題点やインフルエンザ対策などについて話し合っている。包括支援センターからの情報をもらったり、地域の方にホームに対する理解が浸透し、地域へ出かけやすくなるなど会議での取り組みが活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者には開設の指導や助言をもらい相談しやすい関係ができています。包括支援センター主催のゆいゆいサロンに参加するなど市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には2ヶ月に1回近況報告、健康状況、服薬について手紙を書いている。ホーム便りは1～2ヶ月に1回発行している。金銭の報告は出納帳のコピーを送る場合や直に出納帳の確認をもらうなど個々に応じた報告をしている。急を要する場合は電話報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	七夕祭りと敬老会行事には家族が参加し、その後に家族と話し合いの場を持ったり、面会時、電話、意見箱の設置、運営推進会議など意見、苦情、不満を聞く機会を設けている。出された意見は運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動が利用者に与える影響を理解し、職員は常勤雇用したり、勤務希望を優先したり、愚痴や悩みの相談に乗り、働きやすい職場づくりに努めて離職を抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には施設長、副施設長が多く参加し、得た知識をホームに持ち帰り職員会議で伝達研修をしている。職員は島内での研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奄美地域グループホーム研修会に所属し管理者・職員の交流をしている。島内の他のグループホームとの職員交流も行いサービスの向上に取り組んでいる。ケアマネはケアマネ協議会で今年度グループホーム代表で事例発表の役割を担っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みの段階で本人・家族に見学をしてもらい納得した上で入居してもらおう場合や、お試して入居に繋がった場合もある。入居してからは皆の輪に入れるようになるまで職員が寄り添うように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は地域の方言や島歌の意味、豚味噌の作り方、子育て、旦那様への対応の仕方等教わることが多い。職員と利用者は感謝したり、感謝されたり共に支えあった関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にアセスメントで本人や家族から思いや希望を把握するが、入居してからは職員が毎日の生活の中で言葉や態度で確認し、職員間で情報交換し本人の思いを汲み取る様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望にそった暮らしが出来るように本人・家族の意見や職員カンファレンスでの意見を活かし利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月で見直しをする人や、安定している人は6ヶ月で見直ししている。見直し以前であっても状況に変化があった場合本人・家族・スタッフと話し合い状況に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や通院、墓参り、自宅帰り、外泊支援、看護師資格のある職員が服薬管理や健康管理の支援をするなど要望に応じて事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が出来るように支援している。2つの医療機関からは往診に来てもらえるが、往診の出来ないかかりつけ医には受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りはできない事を家族には話している。重度化についてもその都度家族と話し合い対応している。	○	重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての具体的な対応方針を文書化され家族の同意を得ることを勧めます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉づかい等職員間においても価値観の違いがあり、お互いに気がついた場合は適切な言葉や態度について話し合うようにしている。個人情報に関する書類については事務所内で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の洋服選び、散歩、美容院、買い物、起床、入浴、就寝など本人の希望に沿って柔軟に支援している。好きなヤクルト、ドリンク、お酒などの趣向にも職員が適切な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の意向を聞きながら献立を決めている。職員と利用者が一緒に野菜切り、味付け、盛り付け、配膳と食事の準備をして同じものを食べながら楽しい食事をしている。庭のバナナを食するの楽しみの一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一緒に入浴を楽しめるようにと大きな浴槽が設置しており2～3人が一緒に入浴して背中や流し合いやお喋りなど銭湯のように楽しんでいる。冬場は週2日入浴日と決めている。一人で入浴希望する人や入浴日以外の日でも入りたい人(シャワーで対応する)など希望に応じて柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が意欲が出るように庭の手入れや、食事・洗濯・掃除など家事の手伝いをしてもらい、感謝の言葉をかけるようにしている。鳥唄を歌ったり、バナナの収穫、飼い犬とのふれあい、散歩、ドライブなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは地域の人と交流しやすい住宅地にあり近隣への散歩、地域活動への参加、買い物、お弁当を持って遠足に出かけるなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。島は暖かく玄関のドアも開放している日が多い。各居室からは自由に濡れ縁に出入りできる。職員は常時視覚と聴覚で利用者の所在確認をし安全を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署立会いによる通報・消火・避難訓練を行っている。訓練時には地域の協力員や隣の駐在所にも働きかけて協力をもらっている。火災を発生させない為の火元確認の徹底をしている。	○	年1回の訓練だけでなく火災、地震、水害と昼夜問わず災害を想定し、職員・利用者が迅速に避難ができるように自主訓練を繰り返し行われることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の調理師2名が、栄養バランスやカロリーについて知識を習得し献立を作成している。個々の身体状態や好みに応じた調理をしている。看護師は1日の水分摂取量の必要性について意識は高く水分補給は十分に管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした玄関にはソファーや籐の椅子を置き、大きな壺に高さ2mの手づくりの桜の花を飾り華やいだ春を演出してくつろげる空間がつくられている。リビングの一角に炬燵が置かれ座ったり横になったりテレビを見たり家庭のぬくもりがある。建物の床を高く、壁面に断熱材を使用し夏は涼しく、冬は暖かく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には押入れとベッドが備えられ部屋の外には濡れ縁がついている。使い慣れたベッドを持ち込む人もありそれぞれがダンス、ドレッサー、絨毯等を持ち込んでいる。亡くなったご主人の写真や孫からの贈り物を飾ったり居心地良い部屋の工夫がされている。		